

草の根事業育成助成第1回成果報告

平成25年度

- ・世代間交流を促進する
コミュニティサロンの運営
- ・地域の居場所づくりのための
支援者育成事業

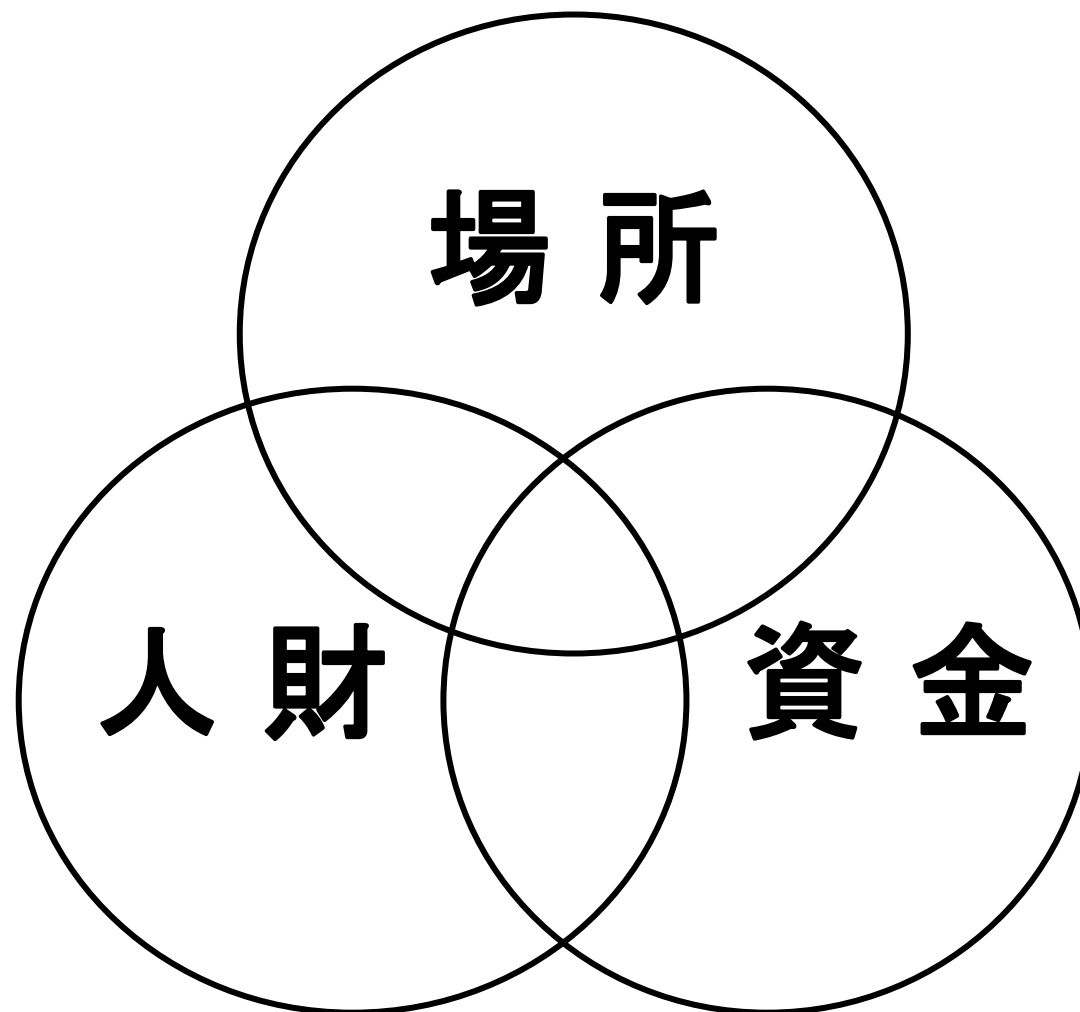
コミュニティサロン・ほっとスペースさつき

2016年5月14日

ほっとスペースさつき開所の経緯

- ・2011年9月白梅学園大学が、大学のある小平西地区の自治会、ボランティア団体、民生・児童委員などに西地区地域ネットワーク作りの呼びかけ
- ・西地区を4ブロックに分けて準備会を重ねる
- ・2012年3月ネットワーク設立集会
- ・第4ブロックでは、コミュニティカフェ、世代間交流に関心を持つメンバーが多く、地域の居場所作りを目指して調査・検討を進める
- ・2012年9月設立準備委員会を立上げ、5回にわたりビジョン、内容について議論し具体化

居場所づくりに必要な3要素



さつきの場合の3要素

1、場所

アパートのオーナーが、さつきの趣旨に賛同し、人的信頼関係をベースに一室を無償で貸与

2、人財(ボランティア)

高齢者クラブの会員、元・前・現民生児童委員、地域住民、白梅学園大学教員と学生など

3、資金(初期投資、運営費)

サポーターの支援金、利用者の利用料、バザー売上、草の根事業育成財団助成金(25年、26年、27年)、世話人出資

ほっとスペースさつきの紹介

- ・白梅学園大学と地域住民が協働で運営する地域の居場所、2013年2月開所
- ・開所日 毎週火曜、木曜 10時～16時
7月～9月はサマータイムで17時
- ・場 所 鷹の台駅徒歩5分、鷹の街道沿い
五月ハイツ1階
- ・ボランティア 約30名が午前、午後交代で対応
- ・利用料 100円／一日(大学生以下は無料)
- ・運営委員 大学と地域住民がメンバーとなり、
毎月1回運営委員会を開催し、報告、
審議などをきめ細かく実施
- ・小平で最初のコミュニティカフェ

平成25年度決算書

(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(単位:円)

科 目	金 額	備 考
収入の部		
支援金	146,000	
利用料	123,307	
バザー売上げ	41,106	
学習会参加費	87,450	
スタッフ慰労会費	11,500	
雑収入(含利息)	1,046	
当期収入合計	410,409	
支出の部		
光熱費	62,611	★
備品	63,726	★冷蔵庫、電気カーペット、消火器等
運営費	63,144	★
行事保険	50,040	★
ボランティア保険	9,600	★
学習会	151,300	☆
スタッフ慰労会費	25,121	
立替金返済	36,827	
当期支出合計	462,369	
当期収支差額	△51,960	
前期からの繰り越し	△171,477	

★:11309 世代間交流を促進するコミュニティサロンの運営 49,000円
 ☆:11310 地域の居場所づくりのための支援者育成事業 40,000円

草の根事業育成財団助成実績

- ・平成25年度
 - ・世代間交流を促進するコミュニティサロンの運営
49,000円
 - ・地域の居場所づくりのための支援者育成事業
40,000円
- ・平成26年度
 - ・世代間交流を促進するコミュニティサロンの運営
34,000円
- ・平成27年度
 - ・地域の居場所づくりのための支援者育成事業
12,000円

さつきのデータ

- ・延べ利用者 3830名(～2016年3月末迄)
- ・開所回数 315回(年末年始を除き開所)
- ・利用者 一日平均 12名
- ・最多利用者数 一日25名
- ・96歳の高齢者から6ヶ月の乳幼児まで利用
- ・孤独、心に重荷を負っている人、障がい者もみえる
- ・さつきに通うことで認知症が改善した事例がある
- ・ボランティア自身が癒されている
- ・持ち寄りで、ボランティアと利用者が一緒に食卓を囲み、にぎやかで楽しい昼食タイム

さつきの様子



学生も台所でボランティア

ハモニカ演奏に合わせてみんなで歌う

さつきの様子 世代間交流



二十歳の白梅の学生と高齢者の会話が弾む



6か月の幼児と92歳の戦争体験高齢者



小学生がボランティアの方などに手芸を教わる



大学生とゲームを楽しむ

さつき主催学習会の開催

1、目的

- ・ボランティアなどスタッフのスキルアップ
- ・市民に参加を呼びかけて、啓発・広報活動を行う

2、成果 2013年9月～2016年1月

- 第1回世代間交流
- 第2回発達障害・精神障害
- 第3回居場所づくり
- 第4回食物アレルギー
- 第5回認知症の理解とサポーター講座
- 第6回人がつながる居場所のつくり方
- 第7回相手の気持ちを汲んで「きく」ということ

- ・参加者数 326名
- ・西ネット広報誌「西のきずな」、ボラセン便り、NPO法人市民活動ネットワーク広報誌「連」などでPR

第2回学習会



2013年11月8日、精神障害・発達障害について学びました

障がい者とかかわる団体の方や、子どもの事を心配されている母親、学生、市の職員など57名が参加。会場で様々な出会いがあり、「来て良かった、希望が見えた」と出席したお母さんから感謝されました。



成果 1(見えてきたこと)

- 心の病、認知症の人とその家族の利用が思った以上に多かった→家族がほっとできる場になっている
- 50歳を過ぎて小平に越してきた人は、人とのつながりが薄い傾向にある。掲載された新聞記事をみて来訪された方が複数名いた(遠くは狛江、八王子)
- 90歳を過ぎた一人暮らしの方の来訪もある。戦争体験や50年前の小平周辺の話など、学生の学びの場、世代間交流の場にもなっている
- 小学生が来て、高齢者や学生と楽しく交わっている
- 暫くさつきに見えないと電話などを掛けて、自然に見守りが出来ている

成果 2

- 白梅学園大学と市民の協働の具体的事例の一つとして、広く市民の間に認知された
- 同様な地域の居場所を計画している団体などからの見学、問い合わせが増加
- NPOボランティアセミナーなどを通じ、武蔵野美術大学、嘉悦大学、文化学園大学の学生も来所
- 小学生の居場所として小平第一小学校から公認
- 高齢者クラブ、民生児童委員、白梅学園子育て広場などとのネットワークが出来た
- 府中市にて「木曜サロン」2015年5月スタート
- 昨年9月から相談を受けていた、学園西町自治会のコミュニティサロンは7月7日オープン予定

広がる居場所

きよか
毎週月曜日

さつき
毎週火、木曜日

きららベビーサロン
毎月第4木曜日



こだはぐカフェ@鈴木公民館月2回

学園西町自治会7月7日オープン

今後の課題など

- ・ オープンして4年目に入り、今までの活動内容を振り返り、今後の在り方を再確認
- ・ 個人情報の取扱いに関しては細心の注意が必要
- ・ 保護者と幼児、小学生など子どもたちの利用促進
- ・ 現在無償で提供していただいているアパートの利用期限

立上げの苦しい時に、草の根育成事業財団から
助成していただき感謝申し上げます。

ご清聴ありがとうございました

